

村本玲奈Live

@ Café de Kaori

2019.12.6 金

開場18:00 開演19:00
(18:00より軽食・ワンドリンク付)

会場：カフェ・ド・カオリ

JR松戸駅東口駅前 イセウビル地下1F

5,000円(軽食付) 全席自由

ヴォーカル：村本 玲奈

キーボード：若宮 功三

ギタ－：越田太郎丸

ベ－ス：水橋 孝

ドラムス：北澤 誠

ジャズ、ボサノバ、ポップス、日本の
童謡をReynaワールドで心あたたまる
サウンドと歌声でお届けいたします。

曲リスト

The Christmas song / Sing sing sing /
Tennessee Waltz / 月の砂漠

主催：松戸クラシック音楽を楽しむ会

問い合わせ：大谷 照夫 090-1805-2206 村本 玲奈 090-1559-0487



松戸駅東口

Café de Kaori

〒271-0092 松戸市松戸1178 ISEU BLD. B1
TEL 047(367)5751 FAX 047(367)5868

村本 玲奈 Reyna Muramoto (ヴォーカル)



兵庫県出身。10代より関西のテレビ番組でタレントとして活動。上京後、芦部真梨子の名前で東芝EMIよりデビュー。1984年日本テレビのアニメ「ガラスの仮面」の主題歌でゴールド・ディスク賞を受賞。シングル3枚アルバム2枚を発表。その後、村本玲奈に改名し本格的なジャズシンガーとして、ライブハウス、ホテルを中心に活動を始める。1996年待望の1stアルバム「Reyna」を発売、1999年スタン・ギルバートをプロデューサーに迎え、L.A.にて2ndアルバム「Reyna Sings In L.A. For You」を制作。2010年から毎年9月に、「去り行く夏のサウダージ」と銘打ち、シキーニョ、ホブソン・アマラウ等の本場ブラジルのアーティストを迎え、サンバ、ボッサを中心としたライブをJ'z Brat(渋谷セルリアンタワー2F)で開催。新人発掘・育成を目的として、Reyna ヴォイストレーニングスクールを開校、俳優や歌手志望の人材を指導。2014年ブラジルの有名アーティスト参加による待望の5枚目アルバム「Liberdade」を発売。以降、コンテンポラリー・ジャズ・ヴォーカリストとして、都内ジャズライブハウスを中心に活動。2018年介護関係施設にてヴォイストレーニング及び身体の機能活性化体操を発案実施。

・村本玲奈オフィシャルサイト <http://reyna-tokyo.jimdofree.com/>

若宮 功三 Kozo Wakamiya (キーボード)



兵庫県出身。デビット・サンボーン、ランディー・ブレッカー、スティーブ・ガット、ウィル・リー、ジニス・シーゲル(マンハッタントランスファー)、シーラ・レイチャールズ、ミンガスオーケストラなど、その他数々の全米を代表するミュージシャンとのアルバム制作。国内では、阿川泰子、あおい輝彦、麻丘めぐみ、尾崎紀世彦、森口博子などなどコンサートツアーのアレンジ&ピアノ、その他、上田正樹、五輪真弓、西城秀樹、研ナオコ、TARAKO、門倉有希、小椋佳、ペドロ&カプリシャスなど、数々のアーティストの音楽活動をサポート。新人、ベテランを問わず数々のプロデュースやアルバム制作、演奏、ライブハウス、都内多々ホテル等に出演する。

越田 太郎丸 Taroma Koshida (ギター)



東京都出身。ボサノバとクラブミュージックを融合させたユニット『Prismatica』のギタリストとして1997年にCDデビューしベスト盤を含む7枚のアルバムをリリース。アントニオ・カルロス・ジョビン、トニーニョ・オルタ、ジョアン・ボスコ、などブラジルのアーティストから作曲、編曲、奏法の影響を受けブラジル音楽を軸に演奏活動を展開。辛島美登里、石丸幹二、葉加瀬太郎、Jazztronik、coba、など様々なアーティストのライブサポートやレコーディングに参加。『Prismatica』のほか『Bossa do Mago』『森』などのバンドにも参加し作曲・編曲を手掛ける。ピアニスト榊原大とのデュオ『男子二楽坊』やピアノ作品をピアノスタイルで演奏するタンゴバンド『TANGO OGNAT』は全国的にファンも多い。2018/6/20にガットギター独奏によるアルバム"Twenty Years"をリリース。

水橋 孝 Takashi Mizuhashi (ベース)



北海道出身。1970年にジョージ大塚のグループに参加したのを皮切りに、今田勝、大野雄二、菅野邦彦各トリオのメンバーを務める。74年自己のトリオを結成し、以後リーダー、サイドマンとして国内外の多くのミュージシャンと共演している。日本を代表するジャズ・ベーシストの一人であり、国内はもとより海外での評価も高い。アルバム『ONE TUESDAY IN NEW YORK』で共演したハービー・ハンコックは、水橋を『日本人の最もソウルフルな男』と評し、オリジナル曲「BLUES FOR GONSAN」を贈っている。「ジャパン・ベース・プレイヤーズ・クラブ」の会長も務める。

北澤 誠 Maoto Kitazawa (ドラムス)



東京都出身。14歳からドラムを始め、高校時代は菅沼孝三氏に師事。高校時代から様々なロックバンドで活動し徐々にジャズに影響を受ける。18歳で東京理科大学理学部応用数学科に入学。同ジャズ研に入学し、原大力氏に師事。20歳でジョージ川口ビック4に長年在籍し自身のアルバムでハービー・ハンコックとレコーディング歴のある、名ベーシスト水橋孝と出会い在学中から大西順子、市川秀男、中村誠一、岡野等、橋本信二、梶原まり子、山本剛、大口純一郎、小杉敏、福田重男、高木里代子等、日本を代表する数々のミュージシャンとのセッションを重ねる。2007年東京理科大学大学院数学科を卒業後プロ入り。ジャズボーカリストから音の繊細さ、ダイナミクスに定評があり数々のボーカリストと共演。2012年自身のバンド『DE IMPLSORE』(ピアノ成田祐一 ベース トオイダイスケ)を結成し2013年、ロイハーグローブとも共演歴のあるNY在住のスタンキリアン(Ts)とトリオで東北ツアーを行い公表を得る。